

ピアノ名器を修繕

駅前市民会館のベーゼンドルファー



寄贈されて22年、オーバーホールをするベーゼンドルファー=2月、「ステージで聴く久元祐子ピアノコンサート」

諏訪市は新年度、同市駅前市民会館にあるベーゼンドルファー社製のピアノの修繕を行う。寄贈から二十二年が経過し、劣化が目立つことから弦を張り替え、ハンマーフェルトを取り替える。同ピアノを利用する関係者は「市の宝の一つがよみがえる思い。手作りの音楽会を開いて完成を祝いたい」としている。(富坂早苗)

ベーゼンドルファーは、ヨーロッパを代表するピアノメーカー。一九八七年、同市四賀出身の外食産業経営者四兄弟が市へ寄贈した。当時は県内に長野・松本に各一台あるだけだった。ピアノは同社製の中で

諏訪市 新年度予算案に計上

「コンサート」が開かれており、

以来、各種コンサートやピアノコンクール、音楽教室の発表会など、地域の児童から国内外で活躍するピアニストら大勢の人たちが、ピアノを弾いてきた。二十年余が経過した近年は弦が切れたり、専門家から「音にひずみが出てきた」などの指摘があった。修繕は、四月初旬から下旬にかけて行い、弦やハンマーフェルトなどを純正部品と取り替える。市は新年度予算案に二百二十万円を計上している。

長年ピアノを使用してきた一人、同市音楽協会会長の森葉和子さんは、「内臓を替える大きな修理をしてもらえることになり、大変ありがたい」と感謝。「ベーゼンドルファーの特徴は木の響きにある。良い音に親しみ、これから多くの人たちと活用していきたい」と話している。

も最高級の「インペリアル」(当時三千三百八十万円)で、縦一・九尺、横一・六八尺と大きく、鍵盤は九十七つつことから弦を張り替え、ハンマーフェルトを取り替える。同ピアノを利用する関係者は「市の宝の一つがよみがえる思い。手作りの音楽会を開いて完成を祝いたい」としている。(富坂早苗)

同年九月には寄贈の実現に尽力した音楽家・野村ともさん、野村真理さん親子を通して、世界的ピアニスト・オーストリアのボール・バドウラー・スコダさんが来日。「名演奏家と名器によるコンサート」が開かれている。

11月1日付